



岸本周平  
Kishimoto Shuhei  
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>

<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>

# 政治の舞台裏

政治の舞台裏といっても、まだ議員バッジをつけていない身の上では、政治家としての経験はありません。しかし、役人時代には末席ながら、いろいろな場面に出会いました。岐阜で税務署長を経験した後、中曽根総理時代の官邸に入りました。大蔵省の首相秘書官の補佐官という立場でした。金丸副総理、後藤田官房長官という豪華なメンバーで、売上税を提案し廃案になっていくプロセスを間近に見ることができました。まだ文章にはできないことばかりが目前で起きていました。

最近では、トヨタ自動車の奥田会長の政策スタッフとして働きながら、内閣府政策参与を兼務して、経済財政諮問会議の舞台裏を見てきました。表面的には政策をめぐる争いのように見えていても、永田町・霞が関の議論は、実は権力闘争そのものです。

自民党の党税調で行われる租税特別措置をめぐる論争がありますが、一昔前は派閥間の権力争いでした。橋本大蔵大臣の時に、生命保険業界が個人年金の所得控除ワク拡大要求を掲げました。担いだのは当時の安倍派です。安倍派VS竹下派の争いになったのですが、最終的に竹下さんが盟友安倍さんの顔を立て、自派の橋本さんを見捨てたため、



大幅拡充が認められてしまいました。

官僚は、理想とする政策を実現するために政治家を利用しようとする面があります。一方、政治家もそれに乗った振りをしながら、関係業界の顔色も見つつ、すさまじい権力闘争を繰り広げるのです。残念ながら、民主党の若い政治家たちは野党暮らしが長過ぎて、この権力闘争を経験していません。だから、優秀でセンスも良いのですが、ひ弱です。逆に、政権さえ取れば、彼らも大化けするはずで

さすがに、自民党の幹事長までした小沢一郎さんはひと味違います。10月22日の衆議院補欠選挙に向けて、小沢執行部の指示は徹底していました。拙稿が世に出るころは、既に勝敗が決しているでしょうから書けますが……。

「安倍新総理就任直後の補選だから自民2勝で当たり前。そこを引き分ければダメージを与えることができる。静岡より東の現職国会議員は神奈川16区に、愛知より西の議員は大阪9区に2回入ってドブ板選挙をやれ。新人と落選中の候補者は身銭を切って、緑の深い選挙区に行って、20票掘り起こせ。邪魔だから事務所にも寄るな！」

私も既に2回、大阪9区に入りました。一運動員として一日200軒を超える個別訪問をしてきました。やっぱり、小沢さんは違います。「我々民主党は弱い。目の前の一戦一戦を勝ち抜かなければ死んでしまう。バルチック艦隊を迎え撃つ日本海軍のようなものだ。全員で補選に勝ち、統一地方選に勝って、衆参同日選挙に持ち込もう。だめでも、来年夏の参議院選挙で勝てば、半年以内に解散総選挙だ。そして、政権交代だ！」小沢執行部の檄が飛びます。

組織がぴりっと締まります。舞台裏を知り尽くした人が表舞台に出てくると迫力が違います。私も政治家として舞台裏で活躍できる日を目指してドブ板選挙に徹します。

